



新たな研究施設の完成を祝う記念式典、下田市の筑波大下田臨海実験センター

筑波大下田臨海実験センター

新たな研究棟完成

海洋生物に関する基礎・先端科学の研究や教育などに取り組む筑波大下田臨海実験センター(下田市五丁目)で29日、第3研究棟の新設を記念する落成式が営まれた。国内外の海洋生物研究者や地元関係者ら約90人が集い、新たな活動拠点施設の完成を祝った。

新設された研究棟は鉄筋2階建てで、延べ床面

積が約450平方メートル。細胞生物学などの研究活動に利用されるほか、同センターが文部科学省の共同利用・共同研究拠点の認定を受けたことで、東京大の海洋基礎生物学研究推進センター(神奈川県)とともに海洋生物学の国内拠点としても活用される。式典では稲葉一男センター長が「国内の中核施設になると同時

に、国際的にも一拠点として研究活動にまい進していきたい」とあいさつ。来賓として顕微鏡研究の第一人者とされる米・ウツズホール海洋生物学研究所の井上信也博士らが祝辞を述べた。